

山頂からの 大パノラマ

標高 1,308^{メートル}
「ニセコアンヌプリ」



▲羊蹄山をバックにニセコアンヌプリ山頂で記念撮影



▲倶知安町で羊蹄太鼓の演奏を聴く団員たち



▲アイヌ楽器「ムックリ」の演奏体験



▲船上でのラジオ体操



▲ラフティングに出発する団員たち



▲地元の子どもたちと一緒にバーベキュー

北海道は好天が続き充実した活動ができたとのこと、真っ黒に日焼けして帰村した団員たちは心身ともにたくましく成長したようです。

今年度のスクールには、村内の小学6年生62人とスタッフ16人の計78人が参加。北海道でアイヌの伝統芸能を体験したほか、標高1308mのニセコアンヌプリに登ったり、倶知安町の子どもたちと一緒にバーベキューやキャンプファイアーをして交流しました。

子どもたちが船上生活や北海道での活動を通して、人を思いやる心や感謝する心を育むことを目的に、村が平成10年度から実施してきた「海洋アドベンチャースクール」。保護者らの強い要望を受け18年度まで事業を延長しましたが、今回も事業継続の要望があったことから、2度目の延長としてさらに19年度から21年度まで3年間実施することになりました。

7/22 ~ 7/26 第10回海洋アドベンチャースクール

みんなの ひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。
身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場総務課 TEL42-1613



7/8

いいいて・まてい・ユニット総会

村づくりをさらに応援します



▲総会の様子

村の応援団として昨年設立した「いいいて・まてい・ユニット」の19年度総会が民家園で開かれ、会員ら26人が出席して今年度の活動内容や事業費等について協議しました。



▲総会前に行われたそば打ち交流

総会では、はじめに佐藤弘子団長が「昨年はお互いの思いを感じることに大切だと感じた1年でした。気付いた事を大事にしながら、今後も飯館村を応援していきたい」とあいさつした後、来賓の菅野村長と佐藤長平村

議会議長から祝辞が述べられました。続いて、18年度の活動報告と19年度の取り組み内容等について協議しました。

ユニットの19年度の主な活動は、多方面で応援事業を展開するために人材バンクの整備や村民との交流会の開催。村の各種イベントへの参加などを予定しています。

ユニット会員は、文化人や福島大学教授、県職員、本村出身者など現在58人です。

交通安全・防犯運動パレード

村生活安全協議会交通安全部会（只野俊部会長）主催の「交通安全街頭キャンペーン」が公民館駐車場で行われ、参加者



▲事故防止を呼びかける参加者ら

7/20

交通安全街頭キャンペーン

「夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動」に合わせて毎年実施しています。この日は交通安全部会員や南相馬警察署など26人が参加しました。

このキャンペーンは、「夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動」に合わせて毎年実施しています。この日は交通安全部会員や南相馬警察署など26人が参加しました。



▲パレードに出発する参加者ら

街頭キャンペーン後は、村生活安全協議会の防犯部会（菅野敬部会長）も加わり、交通安全部会と合同で「交通安全・防犯運動パレード」を行いました。パレードには防犯部会員のほか南相馬警察署の小沼署長と県警白バイ隊も参加。交通安全と防犯の2班に分かれて村内をパレードし、事故



誕生おめでとう

赤ちゃんのなまえ	親の氏名	行政区
佐藤朱音ちゃん	忠男・ラケル 藤	平
佐藤蒼也くん	勇・みゆき 白	石
齋藤翔真くん	寿樹・由利子 大久保・外内	
安齋幸樹ちゃん	正志・静香 大久保・外内	
赤石澤佳音ちゃん	正幸・美和 大久保・外内	

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	行政区
佐藤伸一	大久保・外内
井上夏樹	関 沢

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
堀 江 易	80	小 宮
小山田 専二	73	小 比
高 橋 重友	76	比 深
三 浦 喜一	88	

ご冥福をお祈り申し上げます

(6月21日から7月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

(平成19年7月1日現在)

人口	今月 (前月比)	昨年同期
男	3214人 (-1人)	3269人
女	3256人 (-1人)	3302人
計	6470人 (-2人)	6571人
世帯数	1731戸 (-3戸)	1740戸

◆◆◆6月1日～31日までの人口動態◆◆◆			
転入	8人	転出	11人
出生	5人	死亡	4人

(平成17年国勢調査に基づき増減された現住人口)

親子でほのほの マイスターウォッチング 相双ネットワーク創造プラン 市町村広域連携講座



▲大野さんの話を熱心に聞く参加者ら

平成19年度相双ネットワーク創造プラン市町村広域連携講座「親子星空観察会」が、村民の森「あいの沢」で開催され、村内外から親子など26人が参加しました。

この市町村広域連携講座は、相双教育事務所の事業として、相双管内市町村の教育委員会がそれぞれ連携事業を企画し取り組んでいるものです。今回の観察会は、飯館村教育委員会が、村内の「われら星空同好会」と連携して実施しました。

親子星空観察会では、「いいいて・までい・ユニット」副団長で天文ジャーナリストの大野裕明さん(福島市)が講師を務めました。

この日は霧雨により望遠鏡を使つての星空観察ができなかったため、「民家園」で講演が行われ、大野さんがスクリーンにオーロラや星座などの映像を映しながら、星空について講話をしました。

また、大野さんが資料として持参した、南アフリカに落ちた隕石は子ども



▲講話をする大野さん

7/13

親子星空観察会

飯桶幼稚園(荒川秀則園長)の園児たちと飯桶久保曾の住民が、このほど同幼稚園の園庭に畑を作り、トウモロコシの種をまきました。

これは、中山間地域等直接支払交付金事業の「自然生態系の保全に関する学校教育等との連携」の取り組みの一環で行ったもので、飯桶町では久保曾地区が交付金事業の対象となつています。

秋には食べ比べ

中山間地域等直接支払交付金事業
「トウモロコシ」づくり



▲畑づくりや土づくりをする園児と住民たち

この日は、久保曾地区の住民10人と園児たちが一緒に畑づくりと土づくり、そしてトウモロコシの種まきをしました。

8月30日には、園児たちが久保曾地区のトウモロコシ畑に向き、久保曾地区の皆さんと一緒に収穫し、自分たちが作ったトウモロコシと久保曾地区のトウモロコシの両方を食べ比べながら味わう予定です。

こころの
ぽけっと

思いは次世代に引き継がれ

「大型客船に乗りたい」、その中で「世の中は広いよ」そして「ふるさとはいいもんだよ」などの「ふるさと学習、感動学習」を、ぜひ村の子どもたちにとの思いでスタートさせた「海洋アドベンチャースクール」も、今回で10回目を迎えました。

当初は6回の予定でスタートしましたが、保護者の方からの要望が強く3回延長し、さらにまた3回続けることになったの初回目です。

今回同行してみ、スタッフや事務局が「より素晴らしい感動体験を」との色々な工夫をしていることが見てとれました。

その一つに、船中で「廣戸光夫チーフパーサーの話聞く」ことがありました。主に船についての話でしたが、子どもたちは積極的に手を挙げて多くの知識を得てきたようです。

その中で、パーサー自身の「人生訓」の話も聞くことができました。

その一つは「6年生の皆さん、中学校の3年間はただの3年間ではありませんよ。皆さんの人生を左右する大切な3年間になるのですから、今から

しっかりと心がけていってほしいね」との話がありました。

二つ目の話は、「これから色々なことに出会い、見ることでしようが、『見る』のではなく『観る』という心がけが、とても大切になりますからね」と言われました。私たち大人も「ただ単純に心を含めないうで見ることが何と多いことか」と大いに反省させられました。

そして三つ目は、「皆さんのこれから考えた時、どんな楽器でもいいから少し弾けると、人生はとも豊かになるような気がしますね。そして英語を話せるようになれば、仕事は世界中で見つけられますよ」との話がありました。いずれも、なかなか親からや学校では聞くことができない素晴らしい話ではないでしょうか。

子どもたちは、これらの言葉をどの程度心に焼き付けてくれたのか心配な面もありますが、帰ってから保護者の方の話しかけによっては、きつと胸にしっかりと刻んで、これからの人生の糧にしてくれているのではないかと思います。

私たちの子ども時代にはとてありえなかったような体験経験が、今の子どもは十分可能な時代です。村を挙げて、次世代の方に私たちの熱い思いをかけた子どもが親になった時、その思いを大切に、またその思いを必ずかけてくれるはず」と、私はずっと思っているのですが。

平成19年7月26日

飯館村長 菅野 典雄

もたちに好評で、興味深そうに眺めたりさわったりしていました。

今回の「親子星空観察会」は、10月12日に「あいの沢」で開催されます。